

## 令和6年度水戸葵陵高等学校経営計画表

## 1 学校の現況

学校番号	学校名			水戸葵陵高等学校				課程	全日制普通科				学校長名	鈴木 博光		
教頭名	萩谷 智			越川 義信				事務長名	佐藤 啓				校長室長名	田中 宏和		
教職員数	教諭	49	養護教諭	1	常勤講師	7	非常勤講師	13	実習教諭 実習講師 実習助手	1	事務職員	5	技術職員等	2	計	83
生徒数	普通科		1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
			148	104	135	76	159	81			442	261	25			

## 2 目指す学校像

<p>「国を愛する」人間の育成 ①学校を慈しむ心 ②郷土を慈しむ心 ③国を慈しむ心</p> <p>「人を愛する」人間の育成 ①家族・自己を慈しむ心 ②友人を慈しむ心 ③人類を慈しむ心</p> <p>「平和を愛する」人間の育成 ①家庭生活・学校生活の平和を誠実に希求する人間 ②日本と地域社会の平和を誠実に希求する人間 ③国際平和を誠実に希求する人間</p> <p>「真に社会に貢献しうる有為な人材」の育成 ①「国を愛し、人を愛し、平和を愛する」人間として、道徳性に従って、主体的、自律的に行動できる人材の育成 ②人権を尊重し、社会生活において豊かな人間関係を醸成できる、想像力、情操豊かな人材の育成 ③国際的な視野と高い学識を備え、国際社会、地域社会の期待に応じて創造力、行動力を発揮できる人材の育成</p>
--

## 3 現状分析(令和6年4月1日現在)と課題

項目	現状分析	課題
進路指導	<p>○医学部医学科現役生1名、過年度生3名合計4名合格。現役生の複数合格はかなわなかった。ここ数年医学科に合格できる学力層の入学生が少数であるのが現状である。</p> <p>○国公立大学48名合格。東大1名の合格は22年ぶりである。しかし、当初の目標である50名以上の合格者数は出すことができなかった。筑波大学は5名の合格者を出すことができ躍進したが、茨城大学は6名の合格にとどまってしまった。</p> <p>国公立大学に実際に入学した生徒は3分の1である。合格者数増加にこだわらざるを得ないのが現状である。</p> <p>○各コースとも成績下位者の基礎学力が低い。</p>	<p>○昨年と同様に、医学部医学科に現役生で複数の合格者を出していきたい。全教科にわたり学力の向上を果たし、現実的な志望大学を早めに意識させたい。</p> <p>○残念ながら、統計的な分析による「多数の合格者を出した翌年は合格者が減少する傾向にある」の通りになってしまった。特に、茨城大学の合格者が減っているため、推薦入試の活用のアナウンスを強く出していきたい。</p> <p>○昨年同様に、教員が生徒の学力を向上させる力をつけることが肝要である。講演会や研修の内容を検討し実施していくことが重要である。</p>
入試広報室	<p>○少子化により、水戸地区、東北地区の県立高校は大幅に定員が割れており、ほとんどの県立高校の2次募集も学科試験を課さないことから、この地域の私立高校受験者数は減少している。</p>	<p>○県立高校の併願校としてではなく、本校を第一希望とする生徒を増やす。</p>
生徒指導	<p>○特別指導など生徒指導上問題のある生徒が増加。また昨今、発達障害を抱える生徒や真面目で内向的な生徒が増えてきており、保健室や相談室とのかわりを持つ生徒が増加。</p> <p>○交通マナー等に関する苦情が増。指導の不徹底も要因に挙げられる。</p> <p>○全ての教員が共通理解・認識をもって組織的に生徒指導に当たることができていない現状がある。</p>	<p>○様々な生徒が在籍する現状を踏まえ、教職員においても、発達障害や心理学的に関する専門知識を学ぶ必要がある。</p> <p>○常日頃から保護者との連絡を密にとり、教育相談係を含めた組織的な指導を実践していく必要がある。</p> <p>○生徒の安全を最優先に、登下校指導や校外巡視についても強化しなくてはならないが、教員の負担が大きく、手が回らない。場所によっては、車の誘導が必要な場面もある。</p> <p>○学習指導や部活動指導は、生徒指導の延長線上にあるということを全教員が自覚する必要がある。</p>
特別活動指導	<p>○新型コロナ5類移行に伴い、様々な活動の制限が前の状態に戻った。学校における諸活動においても感染のリスクを踏まえつつ従前の活動に戻し、生徒個々が互いを尊重し、主体的な活動を通して豊かな人間関係が構築できるような環境づくりを目指す。</p>	<p>○生徒会活動・各学校行事についてコロナ前の活動経験が無い者がほとんどであるため教員も含め環境整備をしっかり行う必要がある。</p> <p>○これからの社会で必要とされる人材を目指し、地域に愛される葵陵生を目指し、外部に向けた発信力を強化する。</p>

4 中期的目標

<p>1. 生徒一人ひとりの能力を最大限に引き出し、その進路目標を実現するため、生徒個々に応じたきめ細かな進路指導を展開する。そのために、以下の4つの資質・能力について、全教育活動を上げて育成を図る。          (1)自己分析力(2)主体的実行力(3)発信力(4)社会的適応力</p> <p>2. 個々の生徒の学習意欲を高め、学力の向上を図るため、学習指導の充実に努める。</p> <p>3. コミュニケーション能力を涵養し、教師・生徒間の信頼関係を深め、心のふれ合う学年・ホームルーム運営を推進する。</p> <p>4. 基本的生活習慣の確立と自主的態度の伸長を図り、主体的、自立的に行動できる人材を育成する。</p> <p>(数値目標)          (1)国公立大学の合格者、難関私大の合格者の増加を目指す          (2)1年生の部活加入率70%以上を目指す          (3)各学年の皆勤者30名以上を目指す</p>
--

5 本年度の重点目標

項目	重点項目	重点目標
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学部医学科現役合格者輩出</li> <li>・国公立大学合格者50名以上</li> <li>・学力向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学部医学科への複数の現役合格者を出す。特に茨城大学2桁合格を目指す。</li> <li>・成績下位者の基礎学力向上</li> </ul>
入試広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校を第一希望とする入学者を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単願者・単願切替者を増やす。</li> <li>・在校生の満足度をあげる</li> <li>・SNSによる広報活動をより活性化する</li> </ul>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全指導</li> <li>・特別指導者の減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HRでの指導の徹底。</li> <li>・自転車関連の事故の減少と苦情の減少。</li> <li>・昨年度特別指導件数は18件、特別指導該当生徒数17名からの大幅な減少</li> </ul>
特別活動指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会活動をさらに充実させ、生徒主体の学校行事の運営を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒主体の各種行事の運営(文化祭、クラスマッチ)</li> <li>・生徒会を中心とした活動(野球応援、教養講座)</li> <li>・活動計画に沿った各種委員会の活動</li> <li>・部活動等の校外活動の充実</li> </ul>